

# 子供たちが語る「田辺市地域語り部ジュニア」

田辺市教育委員会

## 1. はじめに

田辺市は紀伊半島の南西部、和歌山県の南部に位置している。太平洋に面した田辺湾を臨み、黒潮の影響により、比較的温暖な地域である。人口は約6万7千人で西よりの海岸部に都市的地域を形成するほかは、森林が大半を占める中山間地域が広がり、総面積は1026.89㎢と広大である。

平成16年7月7日、「紀伊山地の霊場と参詣道」がユネスコの世界遺産として登録された。和歌山県・奈良県・三重県にまたがる3つの霊場(熊野三山、高野山、吉野・大峰)とそこに至る参詣道(熊野参詣道・高野町石道・大峰奥駆道)及びそれを取り巻く文化的景観が主役である。田辺市は、この世界遺産の中心に位置している。

## 2. 教育目標

田辺市教育委員会では「未来につながる資質・能力の育成」「学社融合活動の内容充実」を学校教育推進の2本柱としている。「学社融合」とは学校教育と社会教育が一体となって学習の場、活動などをつくり、地域の教育力と学校の教育力を相互に活用する取組のことである。「田辺市地域語り部ジュニア」についても、学社融合の取組の1つとして行っている。田辺市にある世界遺産をはじめとする地域資源について学習することにより、ふるさとを愛し、地域に誇りをもった子供を育成することを目標としている。

## 3. 教育委員会・学校での取組

### 【教育委員会の取組】

田辺市教育委員会では、「紀伊山地の霊場と参詣道」が世界遺産登録10周年の記念の年を迎えた平成26年から、「熊野古道」を校区に抱える小中学校が、「熊野古道」と王子跡などを再度見つめ直して学習するとともに、その内容を保護者や地域の方々、またそれぞれの地域を訪れた方々に語り継ぐ、「田辺市熊野古道語り部ジュニア」の活動を始めた。翌年からは「熊野古道」に限定せず、校区の地域資源や産業について語れる子供の育成を目指し、名称を「田辺市地域語り部ジュニア」と改めて、市内全ての小中学校において、語り部活動を実施している。

教育委員会では、各小中学校での取組を集約し、この活動を継続、深化、充実させることを目指している。「地域が見える」「人と繋がる」「地域に広がる」の3観点を重視し、どのような地域資源について、どんな人と交流し、学習した内容をどのように発信して広げるかについてまとめており、中学校は語りの内容を英語でまとめている。

### 【学校の取組：田辺市立三里小学校】

三里小学校は、「心豊かにたくましく生きる児童の育成」を教育目標とし、ふるさと学習の重点目標を「ふるさと学習を通して地域を深く理解し、郷土を愛する心を育てる」として、地域学習を展開している。

校区に、世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」があり、近隣の学校等に古道の歴史的価値や文化について語り部を行う「語り部ジュニア活動」を総合的な学習の時間の中に位置づけている。子供

